



法蘭西第三世皇帝那破倫



法蘭西第三世皇帝那破倫

明治第四年未夏六月刊行



# 法普戰爭誌畧

西洋一千八百七十一事

41-7038



普漏斯王維廉



附言

余此書を輯次するや初見只見聞は萬一を録しを以て  
他日遺忘を備むと故に書はる詳備を要と次只  
概畧を擧るのみ然るに居諸を経流くは後弭軍は際  
一夕筐中を採るに其冊既而數卷を累忽依りて以て謂  
ふ余他日歸朝は日閑を得校討淨寫し収て一卷  
とかし以て在廷諸公を呈せば庶幾く多當日乃  
事情を報復るに一助ある可足るべしと遂に再ひ之  
披巾筒に藏めり然るに今日圖らばん皇朝巡觀



使<sub>レ</sub>諸員大山品川池田の諸公ふ巴里府に旅館に  
面謁<sub>ス</sub>得<sub>ル</sub>因<sub>テ</sub>思<sub>ハ</sub>此誌固よ京事情<sub>ヲ</sub>告<sub>ス</sub>茲主  
と<sub>シ</sub>文字<sub>ヲ</sub>修飾<sub>ス</sub>茲要<sub>ト</sub>ス<sub>ル</sub>者<sub>ハ</sub>非<sub>ズ</sub>假令<sub>モ</sub>余再三校  
閱<sub>ス</sub>る<sub>モ</sub>僅々字句<sub>ヲ</sub>間<sub>ニ</sub>在<sub>テ</sub>其拙<sub>ハ</sub>る<sub>ハ</sub>固也然<sub>ラ</sub>  
ハ章句<sub>ヲ</sub>改竄<sub>シ</sub>て報<sub>ス</sub>る<sub>ハ</sub>遅<sub>ラ</sub>む<sub>ト</sub>思<sub>ハ</sub>寧<sub>ニ</sub>草  
稿<sub>ヲ</sub>ま<sub>く</sub>にて呈<sub>ス</sub>る<sub>ハ</sub>速<sub>ラ</sub>かる<sub>ハ</sub>如<sub>ク</sub>速<sub>ト</sub>遂<sub>ニ</sub>此冊  
子<sub>ヲ</sub>取<sub>テ</sub>諸公<sub>ヲ</sub>奉<sub>囑</sub>し<sub>テ</sub>敢<sub>テ</sub>在<sub>ニ</sub> 廷諸賢<sub>ヲ</sub>呈<sub>セ</sub>む  
事<sub>ヲ</sub>乞<sub>ム</sub>も<sub>ハ</sub>也

余此間日誌を抄譯<sub>シ</sub>て之<sub>ヲ</sub>輯<sub>ス</sub>と雖<sub>モ</sub>復<sub>ニ</sub>閱<sub>テ</sub>改竄<sub>ス</sub>  
暇<sub>ナ</sub>し故<sub>ニ</sub>複<sub>ニ</sub>語贅言<sub>ノ</sub>多少<sub>ハ</sub>謬誤<sub>あり</sub>茲免<sub>セ</sub>ば<sub>ハ</sub>今探  
て之<sub>ヲ</sub>在<sub>ニ</sub> 廷諸公<sub>ヲ</sub>呈<sub>セ</sub>む<sub>ト</sub>宜<sub>シ</sub>く校正<sub>ス</sub>加<sub>ム</sub>  
む<sub>ト</sub>す然<sub>ル</sub>も余此地<sub>ヲ</sub>留學<sub>シ</sub>て醫内<sub>ヲ</sub>寓<sub>ス</sub>る<sub>ハ</sub>茲  
以<sub>テ</sub>醫中<sub>ノ</sub>學業<sub>上</sub>に日課<sub>固</sub>より少<sub>ら</sub>くは課餘<sub>僅</sub>り寸  
陰<sub>を得</sub>る<sub>ハ</sub>及<sub>テ</sub>日誌新聞<sub>ヲ</sub>採<sub>ル</sub>軍陣<sub>ノ</sub>舉動<sub>廟堂</sub>に  
事情<sub>人民</sub>に情實<sub>府内</sub>の形勢<sub>凡百</sub>の條件<sub>一</sub>く精閱<sub>し</sub>  
夜陰<sub>至</sub>り机<sub>上</sub>に聚<sub>め</sub>て逐<sub>次</sub>に之<sub>ヲ</sub>記<sub>輯</sub>し且<sub>余</sub>は  
痔<sub>味</sub>腹<sub>中</sub>文學<sub>なく</sub>手裏書<sub>才</sub>なく固<sub>よ</sub>京蚊<sub>ヲ</sub>して山  
を負<sub>ふ</sub>る<sub>ハ</sub>似<sub>る</sub>も<sub>ハ</sub>知<sub>る</sub>況<sub>や</sub>間<sub>亦</sub>街衢<sub>ニ</sub>逍<sub>遙</sub>し師友  
に往來<sub>ハ</sub>惟<sub>日</sub>も足<sub>ら</sub>ず<sub>る</sub>も<sub>ハ</sub>あり是<sub>余</sub>今<sub>此誌</sub>を復  
讀<sub>校正</sub>する<sub>事</sub>能<sub>は</sub>ずして徒<sub>ら</sub>其怠惰<sub>ヲ</sub>誚<sub>ス</sub>茲謝<sub>ス</sub>る



此一也

余誌畧を輯はるや西曆七月十一日と始はて今此二月十九日と畢ふ經過殆むと八ヶ月間怠惰漫游の爲る誌は精しふらば其の數回あり且自ら勉勵し疾病ありは日を勉て缺く事莫らんと欲はと雖とも猶二豎の爲ふ困めらむと誌は精密ならば其を數次及へば故る余戦争の顛末ふ至てハ七月上旬よ今二月下旬ふ至ふに間巴里府城日々出版はる所の諸誌を咸く集え之を貯藏は是余他日此書は拾遺補闕を備ふるものふしと余急之を訂補校閱はる事

能はば敢て自ら其罪を謝はるは二也

此誌中余一書生乃傲慢を憚ららば屢々當日は形勢を贅論はるものあるは又他日は参考を便せむる爲る敢て其を所りして固陋僭踰の罪固よ其辭はるに所なしと及び余窮郷に晚進一己乃淺見一日の事情を迷て明日未然は變果々如何れを知らば曠昔の記は所今日見ると慙悔を生は況や今日に記は所異日之を觀は果々如何そや然と雖も今敢て斧鉞を加へば既往を咎めば其例と比して以て聊か余の朴忠を表は是又余の謹々大方の誦を謝はるの三也



明治第四未正月一日謹誌于法蘭西國巴里府北街  
覺中

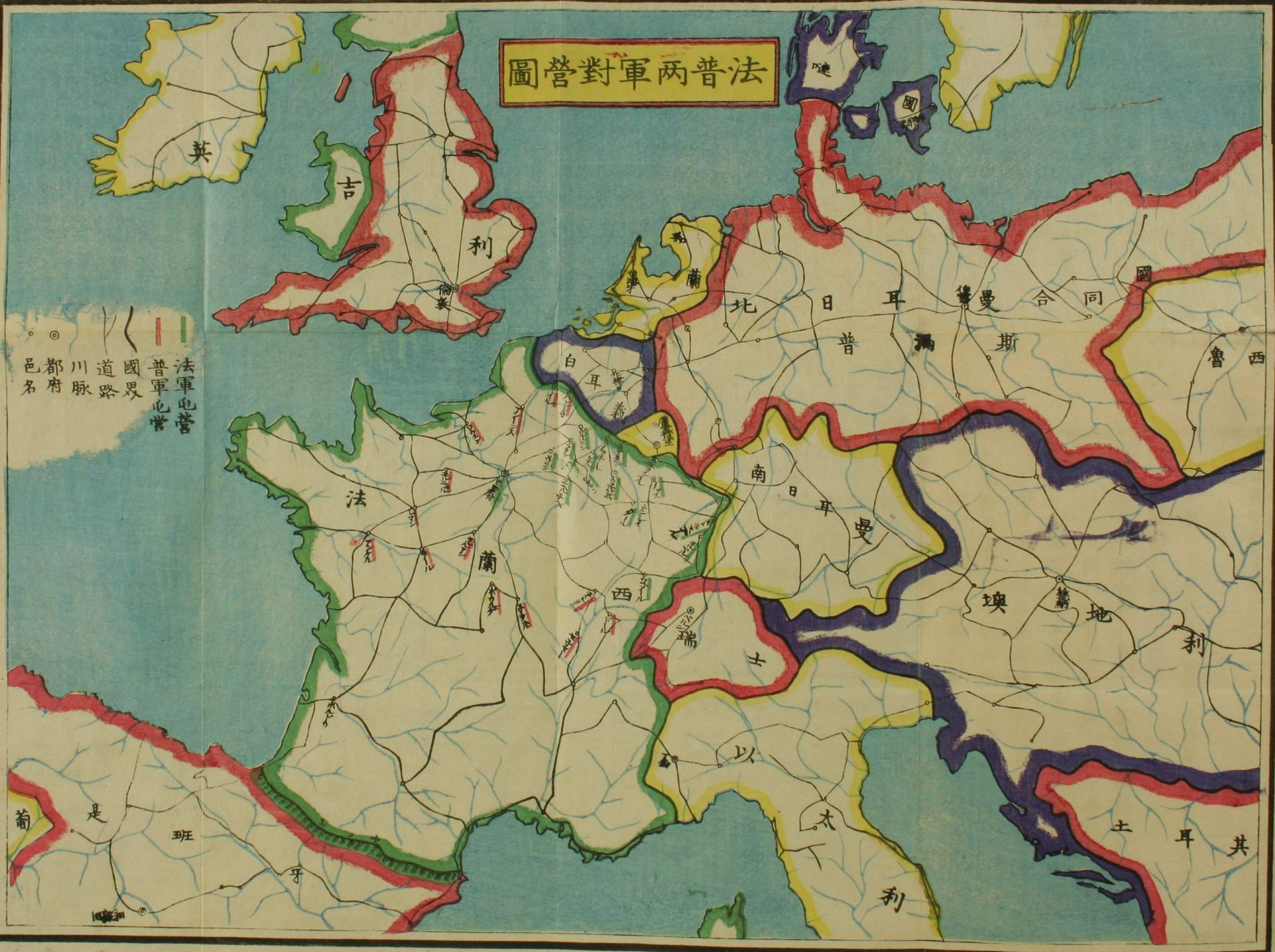
安藝

渡 六之助





圖營對軍兩普法



法軍屯營  
普軍屯營  
國界  
道路  
川脈  
都府  
邑名

英  
吉  
利

法  
蘭  
西  
德  
國

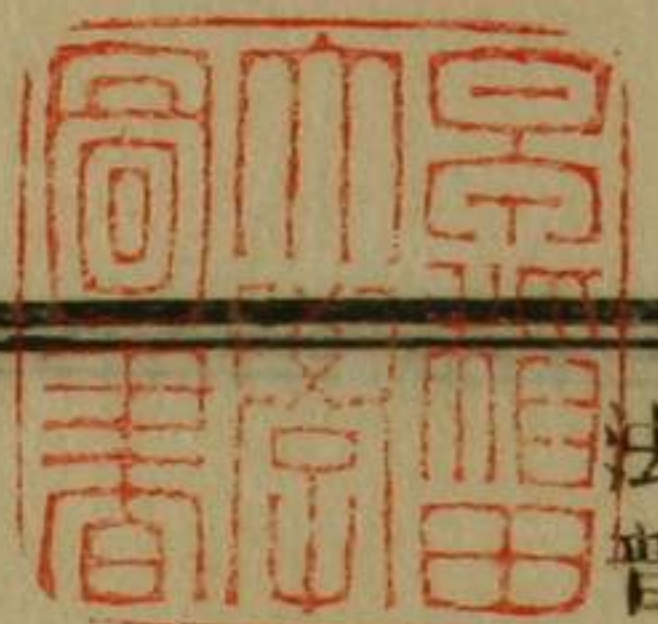
北日耳曼  
普  
魯  
西  
國  
同  
曼  
斯  
日  
耳  
曼  
南  
日  
耳  
曼  
奧  
地  
利  
士  
瑞  
士  
以  
太  
利  
土  
耳  
其

法  
蘭  
西  
德  
國  
普  
魯  
西  
國  
同  
曼  
斯  
日  
耳  
曼  
南  
日  
耳  
曼  
奧  
地  
利  
士  
瑞  
士  
以  
太  
利  
土  
耳  
其  
葡  
牙  
班  
牙  
是  
牙  
利  
西  
魯  
西  
國  
同  
曼  
斯  
日  
耳  
曼  
南  
日  
耳  
曼  
奧  
地  
利  
士  
瑞  
士  
以  
太  
利  
土  
耳  
其





法普戰爭誌畧卷之一



西曆一千八百七十年第七月即  
我明治三庚午六月也

法蘭西國普漏斯國の際に一事起り兩國間和平親破  
きむとし法國巴里府の議事院に於て連日衆議討論  
ありし事情切迫其勢兵革と據らざるを得ざるを  
以て七月十一日法國使節普の伯靈府に向はて發行  
せし即ち我ら六月十三日あり

昨年は班牙國政を變革して女王二世イサへ九



被廢し國內を放逐せり是より因て女王夫婦其幼  
年の一子と共に法に巴里府より來りシヤンゼリ  
セー街に居住してあり然るに是國よても  
其王位空虚なるを以て大臣等集議し就中軍事  
總督ブリム氏其統領として新らみ共和政治を  
建てて謀りて是を那破倫拒みて聽けりこれ  
是班牙人衆議して新らむ國王を立むと謀りモ  
ンバシエー公を推して王位に登らせめりて決  
せり此モンバシエー公といふハ法の前代ブ  
ーノボンバ王九斗ーヒリブレ一子にして是班

牙女王乃妹の婿なるを以て是國に住しを故  
之れを立むと謀りし也然るに法帝復是を聽  
堅く之を拒むる蓋し法帝は欲は所ハ昨年  
放逐せらるる流女王一子あり幼年なりとを  
是を佐る其國王と立て以て是國古有名に王シ  
ヤルクカンに血統を嗣らしめりて欲せり也然  
とらぜられブルム等之を欲せり四方に索る  
る新らむ國王を立むとせり又那破倫何を以て  
是國に共和制度を立てり此を拒みたるは  
被尋ね其意全く已ら肺肝を惡虫を生し遂に



其身體を噛み破る事と深く恐るる故也既之昨年來法國を一時動搖し立君の制度を變し共和の制度を立んことを謀り人民大に沸騰して竊る帝を刺すことを謀りしことあり其尤危急ありしは昨年七月及當春正月なりしに帝其暴黨を罰し其巨魁ある一人エミルオリビエー氏を擧る執政の全權とせり此オリビエー氏廟堂に登りて後大に前説を反して深く帝を佐ふる立君の制度の力を盡せり然とを其餘黨未だ散せし益々其説を主張し交々蜂起し又

帝を暗殺せんと謀り或は大殿を竊るに宮門の内を伏せ或は刺客を設け動搖最甚しありては帝は是を全く鎮靜し普く國中に布告し其嗣子に其帝位を傳ふるに制度を固めたり是實に今一千八百七十年五月二十一日ぬり我四月二十一日也而して是國を又英に求めり王嗣を乞ひたりと英之を肯せし又葡に請ひたりと又應せしは因り竟り普に一王子ホヘンソルシン公を乞ひたりこれに普之を應し其約を成るるに法帝は聽き普に逼りて其約を破



らしめあり蓋し此よ京先き一千八百六十六年  
普國興軍を勝ち其地城擴めたり那破倫是を憎  
むと普之向けて兵を開るむと謀を流事既久  
し而して法國昇平は久しき人民治ふ飽き士民  
大に事好むれば日とし加ふるに那破倫は既  
高年を及ひるれを國民異論を生じて恟々沸  
騰帝の威權稍下ざるに似たり故に帝此機に乗  
し兵を舉げて内外を一洗せむと謀を流るる  
は遂に帝今年六十二歳假令餘齡ありても其機  
今日至如以帝は深慮遠謀蓋爰ふあり然る

今次の事件是と普に問乃縁談を拒む咸く  
帝乃意欲行はしめたり然るに其最後は法帝猶  
一個條を望て曰く普の王族を世々是國に王位  
ふ立るべしと其盟約を定めんと欲し若し成  
らばは繼ぐて干戈を以てはるしと言送たり其  
返答を洋時四十八字問即ち二日乃問ふは可  
しと期を京是を第七月十四日ハ十二字迄也然  
るに普王今次も此使節を受肯ては和議を破  
りて使節を押し返し謁見を許さずは法帝  
直ちに兵を擧げん至るは是此戰爭濫觴乃大



略也即ち西洋一千八百七十年第七月十四日即ち我明治第三庚午六月十六日也

西曆一千八百七十年七月十一日即ち我明治三年庚午六月十三日○法政府並に議事院に議決して法の使節普の伯靈府に向はる發向也○法國軍務官へ兵備に命令を下し○カンシヤロンの陸軍都督は出陣に用意を命じカンシヤロンを法ふる毎年三兵の大調練大運動に爲め出張するの地なり○同十二日此頃政府よりハ兵備に用意頻なり○又巴里府に人民ハ發軍に期を俟ち耳を聳て其状態を窺へ

○同十三日異聞あり○今夜市街に逍遙し事情を察するに街路人民羣集物議囂々○同十四日午後普に事情を報告し曰く普王使節を受るに断然押返して應接を拒絶し談話全く破れ也○今夕法帝直ちに諸軍に出陣に命を下せり○今夜余市中に出で状態を観るに巴里府に廣路處々人民群集し通行し難かるに萬口只軍に評判のみ馬車も亦通行し難かるに市街にセルジャンドビエ市街警衛に兵を數百名出し其道路を鎮靜也○今夕よは先鋒諸兵隊連々進發し出陣の場所二個所あるカンシヤロン及ランを



此ランと云ふ河名にして法と獨逸と其境上と  
あは一大河也○總て巴里府を出陣する兵隊先陣此  
カンシヤロンと屯集し夫と其部署に依るラン及其  
他の地に向ふ中ふは府と京直とランへ出陣するも  
尚京○今夕よ東北ニケ所て汽車道と其諸兵運  
輸其數大抵一次り二千人を載はと云○兵隊諸士  
官咸く軍務宰相ルブーフ氏と引渡はと云○今日  
是府馬德よ其傳信機にて是國軍に用意致爲せりと  
報告は○同十五日法にカンシヤロンと一百大隊  
の歩兵を操出し○今日と其法乃巴里府と普て伯靈

府と其間傳信機並に書翰往復に飛脚會社を悉く禁  
斷は○今日と其日誌に法軍五萬乃兵隊操出しと云○  
今日法帝に從弟フランスナポリオン意太利國へ往  
く人其旨を知り此フランスナポリオンと云ふハ  
意王の婿也○今日法に使節魯埃に出發はと云人其  
旨趣致知らは○今日法の内政全權宰相オリビエー  
氏金庫に貯金五億百萬フランスの貨幣を出し軍費  
を充はと云○今日まで法軍に出陣既に十五萬と誌  
は○昨夕六字半巴里府に駐劄せは普の國使ウエル  
セ九氏府に引拂歸國はと云るめ法政府よ其乃通行  
ツウコウ



票を渡はつこのウエルセ九氏ハ普よ京遣せ給巴府の  
駐劄全權國使也○今日日誌に是國兵を法に境上ピ  
シテ山麓ふ出せり云○今日法とて是國乃境上  
ピシテの側り兵四萬發出しゼネラルトロシユ是も  
將多也○同十六日第十一字法帝進發れ答ふりし  
果流淚○昨今法國とて普に北海及噠國海デナマルクへ向々  
大り海軍を送り出淚○今朝法の太子(今年十四歲)及  
軍務宰相ゼネラルブーフ氏カンシヤロンはて出陣  
乃由報言傳へるれども果さず○同十七日法帝は進  
發ハ來る二十日と決せし由を言傳ふ○今日兵を出

淚事數千人○同十八日今朝普は全權國使ウエルセ  
九氏巴里府發程せ給○今日法軍は出陣せし數萬此  
程日々東北二ヶ所の鐵道よ兵を運輸し其數毎日  
大略萬餘と誌淚○同十九日今日英は使節巴里府に  
到る是も今般兩國戰城起はし就て扱ひを入るゝ爲  
な京然也と兩國共々勢ハ已む可らばして其説行  
ハせ給○今日法亦兵を出し萬餘○同二十日今日は  
て法軍は出陣せ給其數三十五萬と録は○巷説に魯  
みて既り出兵は勢ありて普は應援はる也と識者云  
ふ今若し魯兵を舉ぐ普は應はる英澳意等俱に法は



法普軍等語  
應以へし是歐洲は一大變ふ蓋流言を以て○同二  
十一日法帝は進發を來日二十五日ふたふしと云○  
同二十二日法兵日々萬餘出陣せりと録は○同二十  
三日英は使節猶巴里府に滞在はと云○同二十四日  
よ京同二十七日に至は法兵は出陣はる日々萬餘也  
と誌ははと○同二十八日今朝十一字法帝進發はと  
云行軍は儀を秘して知るは汝道路群集を恐めて也  
太子を同斷ふはと云○法帝留後は國事總之は皇  
妃に委はる命あり假し攝政に任はと皇妃名をヨ  
ウゼニーと云ふ○法帝出陣中皇妃ヨウゼニー氏假

り政を攝し其補佐宰相十一名あり○内政全權宰相  
國章監督及宗門總裁エミルオリビエー氏○外務全  
權宰相ジラクドグラモン氏○内務全權宰相セラ  
ドリエードワルドローム氏○會計全權宰相ゼグリ  
ー氏○陸軍全權宰相都督ビコントデジャン氏○通  
商及勸農全權宰相ソウウエー氏○海軍全權宰相兼  
屬國總裁水師提督リゴウルドゼヌイリー氏○總職  
技全權宰相プリシユン氏○教導全權宰相メゼー氏  
○諸學校學校全權宰相モリースリシヤルド氏○民  
政全權宰相パリアン氏以上十一名なり○同二十九



日今日日誌に過日魯既ふ出兵に備をさしと云ふハ  
全く虚説有りて今次ハ歐洲各國局外中立を守り議決  
せりと云ふ○同三十日諸軍部署定り各々地を分ち  
屯軍次と云ふ○同三十一日猶諸軍陣列ハ普に國  
境ランなる河に兩岸に布陣と云○今日猶巴里府  
よ京出陣せし兵萬餘と誌及○今日ハ形勢兩國に境  
上軍備既成互に戰鬪を開くに期候ふに勢也  
と云

八月一日我七月五日法帝は本陣をメツスに縣了居  
へあると此メツスを法領に普に接する處ふして要  
害尤堅固也と云○同二日午前十一字サ九ブリユツ  
キ縣是亦法普の國境ふて爰みて雙方戰あり十一  
字よ京午後一字はる二字間みして終る此度ハ戰の  
手始め也法帝をメツスの本陣に居る猶明日の軍令  
を下せると夜中傳信機に巴里府に報知ある○同  
三日戰鬪ふし終日對陣と云○今日出陣は兵萬  
餘人○同四日今朝日誌を以て報及一昨日ハ戰ハ法  
國士官一人歩卒十員討死と手負は數並普軍の損  
亡未詳○同五日十二字四十五分兩國に境上なるウ  
イツサンブー九縣出張ハ先鋒隊ゼネラルドウエー



氏の陣へ普軍は先隊俄ふ襲撃して雙方戦ひ烈しく  
法兵大に敗れ大將ドウエイ氏飛丸乃下み討死すと  
此報知夕五字半既り新聞紙と摺出原此ゼネラルド  
ウエイ氏今年六十二歳也と○此の戦を十二字四十  
五分と普兵大率八萬乃至十萬みり大砲八十乃至百  
門被押出し俄ふ法兵ドウエイ氏陣を襲撃原此手  
の法兵履ふ八千乃至一萬みて手痛く防戦しるれど  
も右一百門の大砲連發りて法軍死傷一時ふ枕を並  
へるや大將ドウエイ氏ハ嚴しく下知して諸隊被操  
出し苦戦せしるを其大砲ハ履ふ三門をふら上ふ

又普の大砲隊絶間なく無数の大小砲連發せる故以  
て法軍は中央大に敗れドウエイ氏討死し二陣の將  
ゼネラルモンリー氏も又手負ふ然此時法軍は先鋒  
隊を於チユルコ隊(亞弗利加)黑人隊也素々は勇壯  
乃一戦隊なほ痛く苦戦し味方は死傷を踏越へ銃  
劍の接戦に及しかとも哀哉皆普軍無数のミトライ  
ユース劇射の下に屍被並へるやと云此ミトライユ  
ースと云ふは近年發明の回轉連發の奇砲也○今日  
乃戦ひ法兵大敗を取らるること今夜巴里府市中に流  
布して人氣大に動搖し其騷擾一方なるは余市街に



出々一觀すはこ此府街衢乃廣きも人民群集し々通行  
行ひるるは至りて○今夜十一字過ブーシワ  
一ルデジタリヤン街は兩替屋と數十人迫りて其門  
戸を破却汝此兩替屋元普は用達ふして頃日竊み伯  
靈府は内通し及び頃來數萬乃法金發送輸を故な  
れと云夜中騒動大方なるはれしるせルジャンドビ  
ル隊市街警衛兵出張して鎮靜み至れぬ○右兩替屋  
翌日よは門戸鎖し前々張紙して云々此家法人は  
居にしる曾て普人の居み非はと大書せぬ○同六日  
昨日の敗み因り巴里府中騒擾人心恟々物議頗る沸

騰波爰り巴里府にてブールスと云ふハ相場會所れ  
如きをばみして内外の新聞日誌を公布し且政府よ  
り乃命令新令等張出し諸人を見聞せしむるは場  
所をばら今日午前何者の所為なるや此會所は張紙  
して今日法軍先隊の總督マシシアルマクマオン普  
兵と戦ひ大捷を得二萬五千人を生捕り大砲四十門  
拔奪ひ昨日は敗み報復せりと書きるは此壁書を追  
々傳聞し午時市中一同り踊躍し家々其門戸は法は  
國旗を建り祝聲一時市中騒動あり然るは午後  
至り此事全く虚説をばよし顯るは人心再り動



音信等記  
搖しるるに此ブルースの前にて數千の狂民黨を爲し内政全權宰相オリビエー氏に居館を馳せ集察窓下に蟻附して一同大音聲を訴へるるに偽文を布告はブルースを速らみ閉鎖し且つ徒らに偽説を書記して人心を鼓動するに惡徒を嚴罰之處に爲しとて大り逼りて群集叫呼せり宰相に居館より一員乃士官出來り衆に對へるるに今日何者か所爲を爲しやブルースを張紙して虚説を流布し人心を惑亂せしめたり此輩速に穿鑿あるを勿論向後斯れ如き虚説の流布せは流儀政府よ禁斷せざるを又

以來の政府を受ふる新聞は其善惡の係ら直ちに公布しし唯ブルース局を廢止するに固く大事件にして宰相オリビエー氏を一朝に斷し難し必政府に公議輿論に據らされは爲は可らば且目今も諸人互に盡力して以て國土を保護するに秋也宜しく速らみ離散して國土に幸を祈候はしと爰に於て群集追々離散するは是午後三字半の事にて夕五字半に至り又人數大凡三千人許り再び宰相に門下を蟻附し前の如く今日偽聞に本人願くは其姓名を聞む且宰相オリビエー氏親ら我輩に答説あり



心事を乞ふと云ひたるよりオリビエー氏直ちふ戸を  
 開き出來て對へざるハ今衆に訴ゆは所余具さる聽  
 きあり此後余を請取る諸説報告ハ何事ふよる直  
 ちり公布して衆庶に聞しむるも然れども唯直ち  
 公布し難きを乃ち察是軍令並に兵隊の舉動にして  
 若是は公布せし傳信機あはて瞬間に敵地を傳聞し  
 我軍に損亡招くも計はるるべき也ハ察偽聞に  
 犯人の既捕へ得たれとを余未だ其姓名を知らず  
 假令余其姓名を知ると其罪狀を覈問せしむ以前ハ  
 是は衆に公聞せざるも然るも斯に如き羣集の事

數次り及びちハ自ら亂れて敵に勝利を與ふるも察  
 宜しく速に離散せしむるに斯に群集は人民追々退去  
 せりと云

今夜巴里府内へ布令あり

巴里府の住民へ

一此節人心沸騰數々羣集して巴里府を騷擾し實に  
 不容易に所業を成るる最も慎むべし  
 一偽説は罪人の既捕へ得政府より糾問の上處置  
 ありし且向後此の如き訛言無之様嚴しく方略  
 を施せしむ



一 法國其名を奉戴し且其強盛威揚を對し衆庶宜く  
靜謐堪忍し一よ命令に服従し本國其名譽を汚  
し事なきに深く冀ふ所也然るに斯に如く府内騷  
擾ふ及はく敵國に於て一つに勝利ありむ其是是  
を鑒せよ

一 自今新聞報告を得は事件に細大を係り直ちに  
布告に過ぎ間其時間ハ衆庶殊更に靜穩にし終始  
一致致主とし我軍に捷聞候は可き也

一千八百七十年八月六日第六字

巴里府内政全權宰相以下十名

同七日市中へ布令あり

一 是迄日々政府得る所ハ新聞報知事是を秘に依  
事なく布告し來れり此後彌々引續き普く國中ハ  
公聞に過ぎ也依る左の報知に附示は

一 八月六日夜十二字半メツスル本陣より今夜ハ戰  
ひ先鋒乃將マシシャルマクマオン一戰隊に亡せ  
ば及ひせテラルフロサルサル地迄兵隊に引上  
る

一 八月七日曉三字三十分本陣より○先鋒マシチャ  
ルマクマオン大に普兵と戦ひ一戰隊に亡し而し



法普戰爭誌略 卷之二  
一四  
て其戰隊を引上たりとゼネラルシーグルトが報  
知し來りて今夜一字頃サレ地ふく一戦ありし  
る雙方程なく引上る也

○又市街へ布告ありて今般政府兩替所窖藏中に貯  
め流所に一億百萬餘乃金銀貨を出し今日と京紙  
幣に引替人々乃望みに任はるしと云

按はるに頃來巴里府乃兩替屋一千百萬餘乃法  
金を買入り普ふ送輸はと云流言ありはなきも  
之政府軍費既り五億百萬金取出しある也を此  
先き其失費計はるはと云風聞ふ因り人々

所持の紙幣を賣り金銀を貯むとし物議竊あり  
起る故り此布令ありと見也

○今夜市街處々左の布告は張紙あり

后妃ヨウゼニ下條を法國人民へ布告

一今度初戦り我軍利は失ふ實に我國人痛苦は處所  
なり然し願くは含忍して向後は必勝を希望は  
るし敵若し我國府に亂入はれ事ありは余等先鋒  
に臨みて汝衆民と力は戮せ防戦はべき覺悟なき  
は唯此時間汝衆庶報國は志を一にし衆心同一以  
て能く命令は守せよ



帝は尊命を頼て敢て命令を布く

ユウゼニ

后妃の攝政を頼て奉行は

宰相オリビエ

○此度兵起るとよは人氣動搖し夜々府内は少壯三百五百乃至一千二千三千を彼此に羣集し國旗を眞先み立て凱歌を唄ひ市中彼此に運動はる事夜々なは○今夜余市街より出觀はるに廣路上二個所は兵隊屯集し市中は動擾人民の羣集を禁は又彼はゼルジャンドビル隊數百名出張し非常に警備は余逍遙中其

狂黨四五人を捕へるは見○同八日市中布令ありて府内在留は普人並み都て獨逸各國の人民を此節在住の儀は堅く禁止したは又一つの布令あり左に列は

那破倫神は鴻惠及ひ人民は好時に據はて見は法國は帝として命は發し令は施はは大權は有し全權宰相諸職は公議に依る左の四ヶ條は布告は

一府内住民三十以上四十歳迄にて強壯は輩今まはガルドナシユナルは市兵隊の義に非はは者今咸く市兵隊中に編入はる事



一此市兵隊を府内ハ警衛及ハ城郭周圍ノ砲臺防禦  
ニ備ムル事

一市兵隊法令ノ目的ハ殊更ニ一致戮力城主トシ未  
カ三十歳ヲ足ラサ流ル人民ヲ現今市兵隊中ニ編  
入被命セラル事

一内務軍務二宰相此程諸事件ノ處置被任シ置ク事

一千八百七十年八月七日千エリ宮於テ

皇帝ノ尊命ニ頼リ任セられルヲ留守代言

后妃ヨウゼニ一氏

后妃ハ攝政ニ頼リ奉行

軍務全權代セテラレテコントデジユン

内務全權職セバンドリエー、ド、ワ、ル、ド、ロ

ーム

○昨夜王城内千エリ宮ヨリ諸宰相ハ集議あり同刻  
集議院ヨリモ亦集會あり今日左方乃坐シテ市兵取  
立ル事トシ議シ議決ス及ヒある事トモ中央乃座議論  
ありある事ト明九日再議ト決シたり此日ハ出席一百  
六十乃至八十名ト録上ハ明日ハ會議モ午後一字ト  
定ム他ハ事件モ之ト畧被○法軍今日迄乃討死既ニ  
二萬五千ト録上被



八月六日伯靈府は日誌英倫敦府より報知せるを以て  
左に如し

八月六日午後四字半モエルツヨク乃戦ひ法軍乃先  
鋒總督マシシャルマクマオン大軍を率ひ數戦は後  
我ら軍に壓せられメツスニ退きたり○我將ゼネ  
ラルボツセ手を負ひ且其二脇大ニ損亡ぞは普國  
太子引率せる兵法は三將マクマオンカンロベルへ  
リリノ軍と戦ひ大ニ利を得味方ニ生捕四千人内  
士官一百人分取大砲三十門外にミトライエース六  
門旗二旒れり○我將ゼネラルフランソワ討死し

コロネルローニール手負ひ死傷れ士官甚多し當月  
普は公子フレデリツキシャルヌーブルールを以て  
シツスカステルニ轉陣しゼネラルステレメツス氏  
を法地サルブリユツキ縣ニ進入せり

八月七日普王よは伯靈府は后ニ傳信機ニ報告せ  
る書

此度フツツは戦ひ我軍大勝利を得惟ふは是神明は  
擁護汝所獲る所は戦利大砲三十門法旗二旒ミト  
ライエース六門俘虜四千にて法軍先鋒は總督マク  
マオン手負ふと云



今日巴里府にて八月七日夜九字三十分本陣メツス  
より此報知被公布

フロスビルシイホウヘンニケ所の戦ニゼネラ  
ルコルソン氏討死シゼネラルロール氏脱走大砲  
隊大ニ損亡ハ總督マシシヤルマクマオンゼネラ  
ルヘーリール隊被合シメツス防戦被用意に懸シり  
諸隊オオスゼー軍ハ其他夜中異事なし

那破倫

同九日午後二字前集議院被會合始ル宰相議員列坐

此後議論殊ニ劇しく大ニ混迷被體ニ宰相オリビ  
エー言を發スモトを衆議露々決セ此後又宰相ガラ  
モン何ら一言を發スモトを人敢て聞らハ遂ニ左方  
ハ議員一同宰相の坐に逼ラセハ宰相之を制シ兼  
る此處右方ハ議員之を扶ル坐を退ラシ其混亂言  
ハ此處ハ次議長も退坐シ會議一とムハ相止みセ  
リ三字ピカルド氏議長被坐に直リ討論の熱議被計  
ラレシ喧囂ハ止リ議長之を鎮靜セむトシ  
最も勞セテ五字半ニ至リオリビエー氏衆ニ向ヒ今  
日乃集議を政府ニ違ラセ領取シ難シ尙熱議被爲



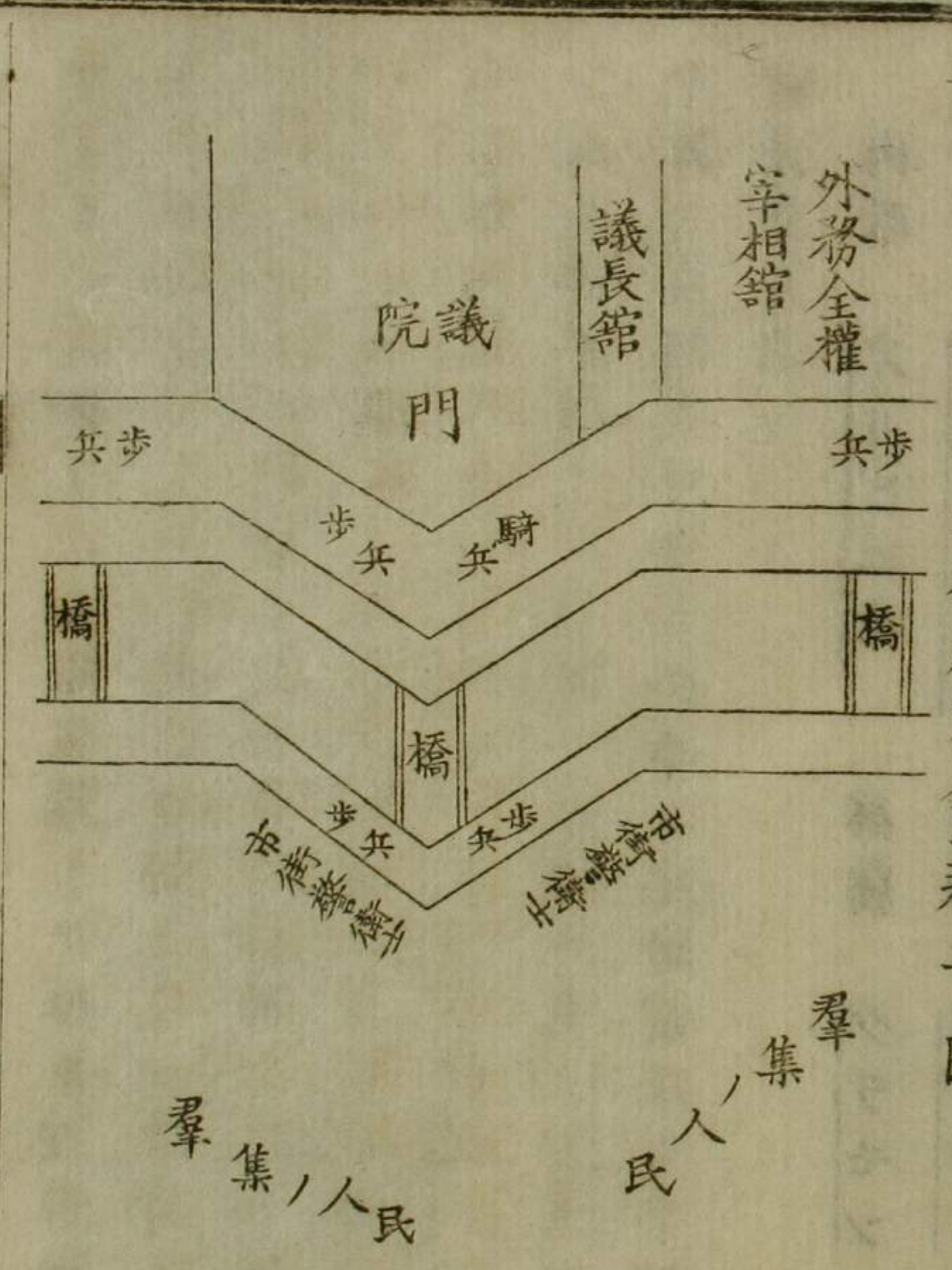
めと再び六字と議坐を開くをいと云ひたりハ議員  
宰相共に退坐し又六字に至りオリビエー氏並み内  
務全權ワルドローム氏其外の宰相共に坐し着き再  
以會議あり此時ジュルハーフ氏進言云ふ前席  
未だ決議に及ばざる二條即ち市兵取立の事並み頃  
來討論れ一條共々其決議を乞ふと此時ピカルド氏  
進言曰市兵隊を目今先は妻をさき者と子なき者との  
み府下に集めて可ならざと此席中他の討論多しと  
雖も辨解し難し終り宰相オリビエー氏高坐に登  
り今日各員宰相退職の議を願ひ出て皇后受領あり

り更りゼネラルコントパリカオ氏新員撰擧の命  
ありコントパリカオ氏之を奉せりと此時既に六  
字半也再議を明日午後一字と決し各員退坐し今  
日集議院の外圍並み其前橋上數萬人蟻集し評議  
如何を聴むと其紛混云ふあり○今夜余街裏  
を去て其狀を伺ふ街路彼此兵隊屯集し羣集り  
人民を制し狂徒の非常な警衛を敷○同十日今朝數  
多の兵隊出陣し一字より議院の會合始まる余又之  
を觀せと往きたり今日も政府より嚴り手を下し  
議事院の前二三十間及橋の前後數個所より歩騎兵隊



屯集して堅く通行を禁じ又彼のセ九ジャンドヒ九  
の隊も出さず人民此近傍を近づく事を制し故に今日  
を羣衆院前可集ふことを得て遠く隔てて私評を  
蓋此警衛の嚴重ぬれは全く昨日の動搖を因る也か  
くせも余も亦院前近づく事能はば只此景況を見る  
るのみ

議事院前兵隊屯集警衛及人民群集ノ圖



法普戰爭誌略 卷之一



今日よ京市街と市兵隊巡邏して非常警備此程市中動擾甚き故也此隊服装を又一派あはれ各自分持と云○市中處々に布令れ張紙あはれゼネラルバリカオ氏攝政と任し新ちふ各員の宰相を撰任候を旨皇后の命を奉せ候と云○昨朝ゼネラルトロシユ氏班國境上れ屯所と候歸候又メツス乃法帝の本陣と發向せ候と云○今日法國前任の宰相悉く退職候其人名

内政	オリビエー	外務	グラモン
内務	ワルドローム	會計	セグリー

軍務	デジヤン	商農	ルーベ
司職	プリシユン	教導	メゼー
民政	パリアン		

海軍全權を其儘在職候

同時と新任宰相十名拜命あはれてボーザルト全權職を廢候

軍務	バリカオ	内務	ゼブロー
會計	マダン	内政	グランペシー
商農	ジユベルノア	海軍	ゼヌーリー
司職	ダビー	外務	オーベルス

法音戰爭論略 卷之一



教導　ブラーム

民政　ビロー

八月九日夕九字二十五分本陣メツスと京報告今日  
先鋒マシシャルバゼーンに軍を戦ひかちし只雙方  
暫時砲戦あゝ味方の砲隊大いに敵の砲隊を押し詰  
味方に死傷を殊と塵ふかりと云○同十日朝八字三  
十分本陣より報知今朝法帝諸陣を巡見と京兵糧隊  
も中心の位置し砲隊乃位置を日毎に前進し諸隊靜  
止相圖に命令を候はと  
市中布令書今般前全權諸宰相退職に依て新ふる新  
員十名就任後向後形勢に因り時態に應じ制御に策

猶適せざるをばあるときを再び人撰黜陟及び事  
一新任十名の宰相も各其職を奉じ官政に服する事

一今般の改革もミニストルボウサ九に職廢止乃  
事

一千八百七十年八月十日

按ずるに此に黜陟元と府内人民沸騰逼迫に本  
く者歟蓋法國の人民其國體に關係深き如し  
歐洲に中國民制御の難き殊に法を首としと云  
巴里府正より市中へ布令張紙ふて今般の戦争手負



莫大な<sup>レ</sup>是皆國土に身命<sup>ヲ</sup>抛ふる勇士なれ<sup>ハ</sup>今咸く之を府内<sup>ニ</sup>送輸せしめ諸病院<sup>ニ</sup>於て治療を加ふる<sup>レ</sup>之<sup>ニ</sup>依て有志<sup>ノ</sup>輩も金銀衣服器什等甲乙多少を論せ<sup>ハ</sup>是<sup>レ</sup>又パシイランジユストリ殿<sup>ニ</sup>差出<sup>ル</sup>事○一昨九日夕八字ゼネラルバリカオ集議院の議員裁議院<sup>ノ</sup>人員共<sup>ニ</sup>數名並<sup>ニ</sup>二局<sup>ノ</sup>議長府州縣乃長官等<sup>ヲ</sup>皇后<sup>ノ</sup>命<sup>ニ</sup>て城内千<sup>シ</sup>リ宮<sup>ニ</sup>會し諸宰相黜陟<sup>ノ</sup>議あ<sup>ラ</sup>皇后も出坐あり討論終夜<sup>ニ</sup>して翌朝五字<sup>ニ</sup>終ると云猶又翌朝八字城中<sup>ニ</sup>て再<sup>ニ</sup>ひ衆議あり<sup>テ</sup>其日十字十員<sup>ノ</sup>宰相各奉職<sup>せ</sup>と云○今日の

報知<sup>レ</sup>普軍已に法國境内へ深く侵入せ<sup>レ</sup>と云○今度戦争の初<sup>ニ</sup>は普<sup>ノ</sup>よ<sup>テ</sup>其國內<sup>ニ</sup>在住せる<sup>レ</sup>法人咸く放逐せ<sup>レ</sup>られ<sup>ル</sup>と今巴里府<sup>ノ</sup>殘<sup>リ</sup>居<sup>ル</sup>普の間諜二千人許あり<sup>ト</sup>云先<sup>ニ</sup>き<sup>テ</sup>法府<sup>ニ</sup>て<sup>テ</sup>命令を下し獨逸各國<sup>ノ</sup>人民を放逐し<sup>ル</sup>り<sup>テ</sup>其儘府内<sup>ニ</sup>留<sup>ル</sup>者猶多し<sup>ト</sup>云ふ其意を解し得<sup>ル</sup>○同十一日八月十日夕四字五十分本陣メツスよ<sup>ク</sup>報知今日プロスビ<sup>ル</sup>の戦ひハ味方不利<sup>ニ</sup>マシヤ<sup>ル</sup>マクマオン其乘<sup>ル</sup>馬を打<sup>レ</sup>られ<sup>ル</sup>と<sup>テ</sup>自身も無事也夕刻ゼネラルハイリ<sup>ル</sup>手<sup>ニ</sup>に騎歩<sup>兵</sup>二兵來<sup>リ</sup>援<sup>ヲ</sup>速<sup>ニ</sup>ら<sup>ル</sup>兵



を引擧るは今日敵軍乃進撃最も劇しるはき○昨日  
法全國み左に個條を布令せは

一 今般我軍諸隊の將帥兵士非常の戰勞を以て大に  
國威を奮起せ給仍其勲功今日集議院より厚く  
褒賞せしむ候事

一 國內都鄙に住民二十五歳より三十五歳までふて  
妻子之なき者ハ咸く兵隊に組籠り戰隊とし給事  
一 軍務局へ其徵募編制と且形勢を因は是に諸手へ  
分配し給權を任は給事

一 一千八百六十八年二月一日に令旨ふ準し即今乃

形勢に就ても四十五歳迄は者自身願ふは速に  
編伍に許は給事

一 無病健康の輩と其年齢を不係望し次第編伍免許  
あは給事

一 曩き一千八百三十二年二月二十一日乃令旨に准  
し都て法國戸籍を貫したる壯年を此度編隊にな  
るは給事

一 右人員検査を諸郡縣みて府督夫々相調へ直ちに  
編隊に是給事  
自餘畧は



同十二日八月十一日夕八字二十一分本陣メツス縣  
よ泥乃報知○今日終日雨降り戦争ぬし諸軍督メツ  
スみ着陣ハマシシヤルマクマオン及ゼネラハ  
リ一軍隊順序よく退陣せりマシシヤルバゼー  
諸隊を巡見ぞ

市中布令書

連日政府受る所は諸報知を直ちに之を布告され  
を以て以來偽聞流言を信し府内を動擾しぬる  
以且其虚説を防ぎ普く事實を知りしめらる爲り  
爾來得ぬ所は報告を即刻内務全權よ泥府内二十

分街へ公示はる事

○去る四日ウイッサシ。プー九縣は戦闘始末  
八月四日朝七字ウイッサシ。プー九縣ふり法軍先  
鋒は内七十四番はバタイエオン屯陣は所へ普軍俄  
り數門は大砲は連發し市中を放火し襲撃を始め  
るは此手は將ゼネラドウエーを五十番を七  
十五番は隊まては歩砲兵を率ひウイッサシ。プー  
九としせ九セツは間り居陣せるは初は普兵と戦  
ひを結ぶるドウエー敵軍は多少を辨へ難く三聯  
隊ふて戦ひ敵は計略り陥りて多くは兵は死傷を



察其戰地、幾イツサレブ、九縣に前敵將ハ普れ公  
子フシテリツキシヤ、九リテ其前陣六萬と法乃四  
千と戦ハドウエ、劇ニク下知苦戦シ、モモ元  
來森林多く、法軍騎歩ハ運動自在ナク、源之ハ  
爲リ支ヘられ將校モ其指揮意に任セ、源九字ヲ至  
リ引上テ合圖をなし、モモ法兵猶苦戦シ、止  
ハ遂リ大半敵ハ爲ミ蹂躪セラレ、三兵合せて、厩ハ  
數百を存シ相纏ふテ、ス、九ツ、退軍セ、察此日  
大將ドウエ、ハ大ニ勦キ極めて苦戦セ、源所惜ハ  
哉、飛丸腹を抜テ死セ、察又其殘兵ス、九ツ、引舉

源、モモシヤ、ルマク、マオン、モウ、九、大、陣、セ  
む、爲軍を率ひテヒ、グノ、シユエ、ハ、向つテ出陣  
セ、此事實ハ當日戦ニ出、ル法兵手負ミ、歸  
府セシ者、よ、得、ル者也、此日普ハ襲撃モ所謂朝  
懸、察、察、也、頃者普並リ獨逸各國ハ人民巴里府  
在住、ル者凡四萬人許、算、源、今、度、ハ、戦、争、ヲ、就、ク、ハ  
此徒今日、モ、二日、の間、源、内、を、引、拂、ハ、境、外、へ、退  
去、ハ、モ、命、を、下、セ、察、也、今日又市兵編成、ハ、布、令  
あり、即、今、二十、歳、と、察、三、十、五、歳、迄、ハ、者、を、悉、ク、兵、隊  
ニ、編、成、シ、且、後、日、乃、景、況、ニ、因、リ、ハ、法、全、國、乃、人、民、都



兵隊編成し出陣しむき旨發令しよ京

巴里府兩替所事情

今般法國戰爭の事起るを以て市中正金銀乏く且諸人所有の紙幣を金錢と引換へ專ら金錢乃ちを貯藏せよ元よ巴里府内りの數多は兩替所ありて其引換用辨等是迄自在なりしふ當今右兩替所咸く其門戸鎖した流る因り人氣彌く沸騰し争ふ政府は兩替所に往き引換を乞ふもの多くして其混雜最を甚し今日午後余此兩替所り往き紙幣を換ふと欲るふ數萬は人民羣集し闊大なる兩替所を取巻きた

流事恰も梨菓は下ふ蟻虻は羣集はる如し此兩替所凡四方一丁餘の館な京此門前ふ兵隊及び市街は警衛兵數百人出張して其雜選を制し非常を警めふ京其引換の法を一萬フランク以上の紙幣を換ふを此を表は本門よ京夫と以下者ハ脇門を出入りし由然一萬フランク以下兩替の者尤も多く脇門乃方男女數萬ふして何れも先きを争ひ進入せんと此此時衛兵等強く之を制し漸く小路を開き先後に順次之循ひ二三人宛之分ち一時間三四度宛出入せし是衆羣乃其門之亂入はるを壓制は流る



大に勉強を蒙る此兩替所乃内に入見依り引替場  
と五個所に分ち一千フラン以下一萬フラン以下十  
萬フラン以下又其以上と各其金高に依り引替場を  
異とせり此門内之道路を回旋狀に造り連々順序を  
以てはるる非れハ猥りに進む事を得此は亂雜を  
防ぐに設けし其規律最も嚴也此引換に貨幣を悉  
く新製乃五フラン銀錢也始に引換人門に入るとき  
ハ片手は紙幣を握り最簡便なるとも出るときは銀  
錢を負擔し其勞殊に甚し余素より一書生にして其所  
持僅に七百五十圓に銀錢也然とて其門を出るとき及

んてハ掌中又重きを覺へあり今日午後一字に三  
字迄俟ち漸く此紙幣を引換へ數萬乃群中を拔出せ  
る○方今紙幣引替として毎日此兩替所に集る人民  
幾億萬を流を知り可かり而して引替の銀は成る  
新製の圓大を流銀錢あり惟ふ今般法政府の何  
程鑄造せしや其數誠に算計はるるは昔日市中に  
此銀錢甚に少し之を量重くして持運り不便なれば  
も然るふ此度戰爭以來市中に銀錢多く從來に金  
錢甚に稀也○同十三日八月十三日朝八字四十五分  
本陣メツスとて傳信機りて報知○昨夜モセ九の溪



問とポントタモーンソンふく戦争あり又マルゲットふて騎兵戦ひし敵兵三十人を生捕しる事○普乃問諜を檢査頗る密なり内務全權よりて布令

一新宰相内政全權グランペル一昨日タツスル本陣に往き法帝ヲ謁し評議數刻を移し畢て退却せし法蘭西國內ナンアシー縣以東を既り敵軍に奪せられあり故りストラスワルクオビネルシユニ一ブルの三縣ふ通行はる事能はぬサチンネロアールル縣令マユリエールの布令

今般我軍利少く敵軍我土に亂入を察若し法國に危急を見ハ滿州に男子悉く出づ防戦に應じハ勿論なり余衆より先ち示はむる爲め我二子を兵隊に加へる是れ余の報國の微衷にして法全國に人民身命を抛ち國を報はへし秋を候ふべし

一我のサオンネロアールル縣の男子勇夫等の生質強勇なる事を常々人々知る所にして誠り敵に向ひ必死の期しある死戦隊と稱はるし嗚呼汝勇夫等盡力奮戦し萬邦に威名を揚ぎ臺を嘲り汝受ける事勿れ



一嗚呼汝勇夫及ひ男子等我ら國旗を翻し我郡縣勇  
幹其名を墮し事なく他日全捷の日各其威名を輝  
煥らし

一千八百七十年八月十二日

同十四日巴里府布令内務全權よ

昨日巴里府とナンシー縣の間傳信機を斷切せし  
れ其夜ナンシー縣の一地方敵の騎兵と掠奪せらる  
る由ナンシー縣と急報あり

今朝東營より左の報知あり仍る公布し

今日巴里府に一病院に入る手負士官三十三人其

名ハ爰リ略

府縣督次官アルフレドブランセより市中へ布令

一去る八月十一日乃布令通て法國住民二十一歳以  
上ふして未だ市兵に入らざる者ハ此度悉く兵隊  
に編成せらる旨令し

右ハ今日と三日間ふ呼集め申可き事

○八月十二日普の伯靈府に日誌但し英の倫敦府よ  
り此報知○普の皇后ハ躬へ出て方今生捕る法の  
將卒兵士等の資糧を厚く注意し且諸事ハ配意せし  
と○昨今此後より法乃生捕將卒へ着服及ひ必要の



諸品被給せむ爲め其配意極めて懇切なると○又伯  
靈府乃住民ふる婦女子の社中よる此法虜被憐と酒  
麥酒茶茄菲及び貴等の諸品被贈せりと○現今伯靈  
府に於て蒸氣車留場に諸役人に給使に全く婦人  
を任用せりと云○又法虜に給使よを都て婦人被用  
ひたりと云是男子に都て軍役に出世はるる○同十  
五日但し八月十四日六字本陣メツスの報知  
一昨日先鋒將マシシヤルマクマオン三萬三千乃兵  
を率ひ普兵に十六萬と戦ひ三字間を移せしる其  
後雙方彈藥盡き各銃劍を以て接戦せり此時法兵

ハ饑餓を迫り終に大敗を取せり  
一敵兵彌々進入し今夜ハ必死サシイッセ九ノ亂入  
ハるしと先鋒より報知せり○諸道に敵軍彌々進  
撃ハる由乃注進絶間なき

内務全權セブローよる布告

法帝メツスの本陣引拂ひに報告あり昨十四日八  
字メツスの傳信機ふる○今午後第二字法帝其太  
子と俱るメツス被退きウエ九ジユム縣に轉陣せ  
り此退陣前法帝此市街に左乃布令を出せり其文  
よ云○余今日メツス被陣拂ひ然るを當市街



の防禦も厚く諸將も托し置たり又敵の進入掠奪  
 多し元よは我ら士民衆庶の許さくも所なきは宜し  
 く諸勇士我軍と共に法國外郭の防禦を盡力あら  
 ざる事汝之れ余依頼する所也余在陣中當地に衆庶  
 厚く我の注意懇情汝歇せは余之を忘る可らざる  
 幸ひふ他日再び來るは深く衆庶に厚意汝謝はる  
 べき也

一千八百七十年八月十四日メツスふ於て那破

倫

昨十四日午後一字十分ロングビル縣と察の報知○

今朝我軍隊モセ九河に右岸を越へるは我軍其河を  
 半に越へしとき俄らふ普大軍を以て劇しく襲撃し  
 四字の間戦闘しるは此とき我の軍奮戦して悉く敵  
 軍を追ひ退るるは普軍大に損亡せりと那破倫○  
 昨十四日夕六字四十五分ツル九縣より乃報知普軍  
 今日午後二字當縣よて千五百メートル九我百二十五  
 丁也の近方に進入し雙方騎兵に戦争あり味方一人  
 討死一騎を其行方汝知るは此時ガルドモビル歩兵  
 大に戦争せり雙方若干に死傷ある未だ其檢へなく  
 及び○普の伯靈の日誌白耳義國より送達は○八月



法普軍等言略 卷之二  
三十三  
十四日伯靈に報知メツスと京ポインタムソンの地  
ふ陣せし法の一バタイユンの軍今朝我軍當市ふ進  
入はるや否や俄らに其輜重を棄て退る京○ナンシ  
一縣を法軍之を棄て退去せり○今日普軍の騎兵此  
市街に鐵道を破却せり又他の騎兵をしりメツス乃  
市街中りある法兵前營の兵糧を奪へり○巴里府今  
夕の日誌中り曰バ九千ツク海り於てバ九千ツク海  
と云へる獨國の北方乃海なり法の海軍部署配布  
しり獨の諸港及び其運輸一切遮斷せりと云又此  
バ九千ツク海中獨の方を碇泊しある歐洲各國の諸

船將り法の海軍全權よに使節被送たり曰今般法普  
二國に戰鬪り就て近日海軍の戰爭を起るる事  
ハ不意り流丸に災害り罹る事ある計り難し故り  
今碇泊の諸船今日とて十日に内り當所被引拂ひ速  
り出帆あり事乞ふと云○八月十四日コロゾ縣  
の報知此コロゾを法と普と乃境上りある地也今迄  
巴里府り在在しある獨に人民四百人昨日其府内を  
退去して當縣り遁れ來せりと云○此度巴里府中り  
在在しある獨の人民二日に間り法國を退去しる事  
示令俄り出るに仍て此戰地を中りしり一ツを白耳



義よて一ツを瑞土國とて二路に分きて側は二鉄道  
とて退く可き命を下せ又を法國政府よて此道路  
の法國領内みある蒸氣車を其價通常の半價を以て  
通行せしむる旨被命せられたるを退去せし獨は  
人民を皆な通常の價被拂ひて歸せられたる云ふ○同十  
六日今曉三字十六分バルジユツク縣乃急報今朝普  
れ甲冑騎兵衆多此コンメルシーの地被進撃し直ち  
に當縣に亂入しむる勢ぬ故に余今朝當縣乃鐵道  
を斷絶せしめられたる○ウエルジユムは縣令よて報知  
今朝六字十分發は昨十五日終日メツスとウエルジ

ユムは間を戰爭あはれし夥しき砲聲被聞る只今此  
地に來り居る者と傳聞はる今曉彼は市街に於て  
大戰爭あは普兵戰死四萬餘人ぬと昨日に戰ひし  
エルジユムの近傍二十八キロメートル(大畧我ら二  
里半餘ぬ)地より敵軍進入せられたる此戰ひは  
後敵兵遠く南方より引上るる○今日法帝猶又ウエ  
ルジユムは本陣被引上るるシヤロンは地は陣被移せ  
られたる○先鋒總督マシシヤルマクマオン兵被シヤロ  
ンの近方より引上るる普軍の進入其劇烈なる知  
る可き也



今日法政府兩替所は布令會計全權マノウトよは  
方今不容易の形勢に就てハ金銀自ら乏しく不  
都合の付市中爲融通此度新ちて二億七千五百萬  
の紙幣製造せり此内一千五百萬を五十フラン  
の又五千百萬を百フランの紙幣なり又小價通用  
の爲め別々二十五フランの紙幣を新ちて製せり  
此二十五フランよは以下は價を金銀錢を用ひ以  
て用を辨は可し其他一億三百萬フランを諸郡縣  
へ出し又巴里府は商社に三億三千六十萬フラン  
の金銀錢を出し置きより此紙幣及金銀は引替を

巴里府兩替所は於て左は日附及刻限に引替はる

日曜日火曜日水曜日午後一字よは三字迄

木曜日金曜日十二字よは二字迄也

一千八百七十年八月十五日巴里府

同十七日昨十六日夜十一字メツスよは報知○昨日  
終日敵兵二大隊彼此に運動し攻撃はる地を探索  
せし我軍乃爲る皆追ひ退るらむ○今夜法  
帝カンシヤロンの轉陣し大に兵備を指揮せり○  
此兩三日間普軍大に振ひ法國の地に深く責め入り



法普戰爭詳畧 卷之二  
昨今已メツスとウエルジユムに戦ひを開  
り而して法帝昨日迄此ウエルジユムに本陣を居  
し敵兵近はき其攻撃甚きを以て又引てシヤロ  
ンに本陣を布るに普軍は奮ふ知るをき耳○同夕三  
字十五分メツスに總督よに報知昨十六日グラウエ  
ロットに地にて大戦争あり味方大に勝利せり然と  
も其死傷殊多し○昨十六日メツス近郷に戦闘あ  
り法兵は三番及四番隊にて其勢大略四萬也蓋し普  
兵大に損亡し其數一萬八千乃至二萬に至るとも法  
兵乃死傷を殊に些少ぬと又一書にハ普兵は死傷

其高三萬を登ると云○當日の戦法普は死傷衆寡の  
差あり是れ何故なくむと云ふに法軍はメツスに陣  
營を連ね數百の大砲及數門のミトライエースを配  
布し其軍能く整ひ全備の陣なり故に法兵を少しく  
死傷し普兵も大に損亡せりと云○今日巴里府に販  
來せし手負兵の物語り曰く本月五日朝法軍の諸隊  
或は朝食し或は河に入て水泳し杯せしとき普の大  
軍不意に襲來し烈く逼りて此時千ユルコ(所謂黑人  
隊)は直に水中に飛ひ出し裸體のみ終日戦闘し  
るも其勇壯特に他に勝りと云然とを法兵の死傷及



虜となる者甚ち多し。○同十八日總軍總督バゼーン氏の報知昨十七日夕四字昨日ブークーレと千オンウイニは間弓て終日戦闘あぢし殊更劇烈より終に敵兵を強く追撃し昨夜を敵軍を追ひ退くも道路に於て夜を明し數時間彈藥運輸の爲め諸運動が止めたり此日は敵將を普の太子及びゼネラルス・テンメツスに二將也と云々。○昨夕八字五分に發せし本陣ウエルジユム縣の報知今朝第九字普の太子シヤルクフリデリツギ大軍を以て烈しく我軍に右翼を襲撃せし我らゼネラルホルトンの督は兵騎兵

大隊及びゼネラルフロサルは歩兵大隊を以て此敵に向つて戦闘せし同時としゾンビルの左右翼連營隊も引續き操出し黄昏に至る迄烈しく戦争せし。○今日我ら軍の銃氣強く最も烈しく攻撃せり故に敵兵屢く守返し苦戦せしと雖も竟に大敗を取れり又黄昏及びむる新手に一軍を以て我ら左翼を襲撃し之を破るむとすむを味方堅固なれし此亦敗を取れり此日敵軍の死傷莫大なり我ら軍も亦夥し。○本日ゼネラルバタイユも手負其附属警應は小隊二十員を咸く死亡し又指揮司カヒテン一員討死



せり夕八字敵兵咸く敗走しむるハ味方諸軍被引舉  
るも又此戦鬪被なした兵其數十二萬餘を附  
録今日兩軍手負を夥しくブリシー地を運輸せ  
り○巴里府市街布令書中有り曰

一巴里府在在乃日耳曼國人民中或ハ家屋被所持  
し或ハ久しく在在しある者有りて其儘巴里府在在  
被願ふを此ハ是被許容せぬ

按此るも今般法國ハ戦争其始より萬事甚た公  
や々として敵國人民府内ハ在留被禁せ被軍中  
ハ事情報告書を直にこき被公布以實行其所置

公明に似たりと雖も戦鬪上之於て大に損失あり  
る可し其故ハ巴里府中より日々出被朝暮ハ壁書  
及軍中報知日誌等之れ被市街に出せも忽ち羽  
翼被生じて敵地之飛行し敵軍坐して府内ハ事  
情を知り其機に投して莫太ハ利益を得るしと  
思へもなり

○昨十七日よきセララドロシユ氏巴里府ハ總督  
及府内防禦ハ總裁職となれり故に此都府ハ諸命令  
を皆な此人より出被○城郭外軍中ハ總裁職をマシ  
シヤルバセーン及マシシヤルマクマオン乃二將也



故に法國數百名にゼネラル有りと雖も今日法に總  
軍を率ひ出てく戦ふを乃其命令只此二將に方寸を  
あ察又入つて府内の城郭を警備し本城に浮沈を任  
しるを此にゼネラルトロシユ也又此を佐々く軍務  
全權内政に樞機に關しを此にパリカホ氏也故に此  
三四將を頼むは外法國他に其目的なれば法帝すら總  
軍に指揮を掌る事能はば都くバセーオンマクマオン  
に二將をして之れに總裁せしめあり○オムニビユ  
大社中此オムニビユスと云へるを通常市中往來の  
人民乗合ひ乃馬車なりより今般巴里府外郭防禦に

付諸城砲臺の修理造營を以諸運送及用便を爲す千  
五百疋の馬を献し度旨を願出せ察内務全權之を許  
容せりと云○十六日朝八字五分リユクサンブール  
縣と察報告昨十五日終日普の前營と我が後營とメ  
ツス及びナンシー縣の間を於て烈しく戦鬪あり法  
軍強く普軍に前頭を攻撃し普兵を多く此メツス縣  
の砲臺下の挫しきも察此日普軍乃死亡大凡二萬八  
千人及生捕五千也と去る十五日後法兵乃勝利屢を  
察大に旗色よく總督マシヤルバセーオン軍中第一  
等に總裁に居り其威名殊に轟々なり○同十九日昨夕



五字本陣を發せし軍務全權職に報知一昨十六日の  
戰鬪始めゼネラルラドミロー乃兵隊右翼に先鋒  
に於て七十三番のバタイユンを以て普軍に騎兵大  
隊破打崩し續ひて其エタンダルド騎兵大隊の旗章  
也を奪ひ取れり雙方に騎兵數個所ふて大戰爭あり  
勢ひ尤も烈しかば此時ゼネラルシグランド其分  
隊乃先鋒にありて討死せり又ゼネラルモンタイジ  
ウも其行方を知りて普軍にみてもゼネラルドウリン  
グ及びウエデル乃二將討死しグリウセル及びウ  
ロ一千に二將を手負ふ事○アルベルト侯普王の兄

弟よりしり齡は六十余と云騎兵に指揮を掌りし者又  
討死せりと今日乃戰ひ法軍大勝を得黄昏に至り近  
日畧奪せし地を盡く取返しり○翌十七日  
朝ガランシットに近傍に後軍の戰ひあり昨十六日  
に戰ひ普軍十五萬乃軍隊ありと味方今日に手負死  
亡未だ檢せり○八月十五日メツス縣外マンソンユ  
ウに報源本日戰鬪中な於て所々周旋せし士官に  
筆記昨十四日曉三字諸隊戰鬪始まり朝五字頃ふ至  
り銃砲劇射り音天地撼動あり余此中より周旋して  
他事あり此日マシシヤルバセインを諸軍乃指揮總



裁あり軍中より於て最も其望發販せし法帝は陣より  
 一百メートルに距離あり於て諸ゼネラル諸軍を督け  
 ○今日普軍我ら二軍の中間に陥り多くメッスよ  
 け劇射はる砲丸乃下とと斃せらるる最後ふ余我ら戦  
 闘せる軍隊中より出て流丸の中より於て辛くし路  
 を索えり通過せしことより圓狀を視る事なく只雙方  
 の飛丸空中より飛ゆ音のこを聞く漸く一地より出れし  
 マルシヤルバセーノの戦隊也一瞬間此地より足を止  
 めらるる彈丸乃雨下はる事殊に夥し余今日兵隊と  
 共みメッス發出て道路は艱苦殊に多し○同二十日

今夕六字カンドシヤルバ本陣より報知昨日法帝馬  
 上より諸陣を巡見せし時兵隊等帝より迫り進闘の命  
 を得む事を希望せり

内務全權乃布令カンドシヤルバ本陣にある法軍  
 の數十六萬七千人其區分左に如し

- 一二萬七千人 マルシヤルバマクマオン
- 一四萬人 ゼネラルヘーリ
- 一三萬人 ゼネラルヘリキスドウエ
- 一七萬人 ゼネラルビノア

此兵隊をマクマオンの援兵を備ゆるを也



巴里府市街に布令

巴里府内在留に市兵隊運動軍の農兵隊府内海陸  
兩兵隊並に城郭中外防禦に諸軍隊中へ軍務總裁  
ゼネラルドロシユ左に軍令を布く  
方今に形勢切迫に就て余今度新たに巴里府防  
禦に總裁職並に合衆兵備の總督に命せしむるに  
其名稱の尊き其委任の重き實余に於て過分の職  
掌に然しとて國家危急に秋ふ當はる全國に生  
民一ツも無遺漏盡く其身を以て國を報はるを只  
此時あるものと故に余も亦衆と俱に志を一にし

力を戮せ一身を抛はて國を報せむとは是れ余の  
赤心也我法國昇平日已久しく承く干戈を収む  
と雖も威武に會て撓まざる事汝等内萬邦に知ら  
しむるを即ち今日有るは是れ各自報國を抛身に外  
他事あらば是れ汝等過日ラン河に一戦を於て衆已  
ふ我が國の武風名譽を知り此時我一軍敵に三  
軍と戦ひて武威を示せし事皆な赤心報國の勇士  
其身を致はる巧なりは衆宜しく之れを察はる  
し巴里府内は兵隊中へ  
余未だ身命を保ち爾群勇に威力を恃て以て其中



に立てり今汝衆士の勇威あり及其報國の赤心あるハ之を問わん之を疑ふ汝余嘗て能く之を亮知らんハ也然れども今特ニ爾衆士乃正義強武英氣勇貌を以て其武職乃重任を高く顯は事余も切に願ふ所嗟々英氣を養ひ威武を輝は可し

一千八百七十年八月十九日

普乃伯靈ハ新聞誌英ハ倫敦にて報知内ニ普王其妃ニ送る捷報○九月十九日夕九字レゾンビルの脇ビワツク縣の本陣よマ○余今日命令發下しテ法軍メツスの西部ニ在陣せる大軍を急ニ襲撃し今九字一

戦れ後彼の軍烈しく戦鬪せり然れども法兵巴里府よりの救援道被断れる事は大に敗れ竟いよメツクに退軍せヌ○同二十一日此兩三日間法政府軍中には報知を布令せ流るハ普の間諜多く巴里府入りテ巴里府ハ日誌及び府内ハ状態を時々刻々或ハ倫敦府とヌ或ハ白耳義國とヌ盡く伯靈府に通し大に戦鬪の害を爲す故なりと云○今朝余日誌を閲はるる新聞會社一説を附録は曰くヒスマルク氏(普國第一等の全權宰相)し々内外ハ政權咸く此人の方寸より出は實



○歐羅巴洲二十年來乃人材也と云此人此度ハ獨逸國ふ於て其聲價甚ち高し如何となまハ法普軍を起せし以來戦ふ事未ち三週と過渡而して普兵の亡ハこと既と十五萬也此軍若し陸續三月乃至らハ彼ハ兵の亡ハ八九十萬に登る可しと是れ先年普ハ埃地利との合戦三月ハ間なきハ也○余今日巴里府乃城郭外に出て防戦豫備ハ結構ヲ視るハ巴里府内よマ出る所の諸道ハ悉く堡寨砲臺を築造し均しく渠を設る又諸鉄道の下ヲ掘り開き敵若し俄に此鐵路よハ闌入はるときハ直に斬テ墮し其鐵路を斷

つ爲め也と總て巴里府周圍ハ砲臺ハ防戦乃豫備殊に嚴也○二十二日戦鬪報知の布令れし政府に之を秘しと云○倫敦府よハ報知せし普の日誌中ハ昨夜生虜の法軍と伯靈と送り其數二千八人内士官三十六名あゝ今日又五十四人生虜の士官と送テ此内ハゼネラルプロンビンと云人ありと云法軍去る十四日クルセス十六日ビオンビル十八日グシベロツト三度ハ戦争ヲ損亡せし兵數大約一萬五千也是ハ生虜及ハ傷者を合せ計るハ五萬ふ及へり又ハ伯靈ハ法兵の生虜既と四千人あゝ○同二十三日戦争



此報知を聞らば他ふ書載はるまじし○法兵巴里府  
の内外ふあるもの其大約

マシシヤルバセーンに督せる兵十三萬

其他巴里府内外各地ふ配布はる所の兵三十五萬  
又市兵二十五歳以上三十五歳迄の者一百四十萬  
なりと云

○今日普兵の生虜四百人をソアソンの地へ送來  
ぬ又迹より一郡に生虜を送輸はるしと云○同二十  
四日別の戦争は報知を聞らば此兩三日間巴里府内  
殊と静謐也近日普兵頻りに亂入しと昨今ハカンシ

ヤロンに近方迄進入し諸所を蹂躪せりと云此地ハ  
巴里府より我二十二三里の距離也○同二十五日傳  
信機急報あり昨日ストラスブールの地に於て數時  
間に砲戦あり普の騎兵二分隊今日ドウンワン及其  
近隣の地を領し又ブリアンヌの地を兵隊が分布せ  
り昨日斥候に爲め大約百四十騎兵カンシヤロン  
の地に來りて夕六字頃退去せり普の騎兵サンシミ  
川の周圍に布陣せりツールの地に布陣しるは法兵  
ガルトモビル隊の二大隊戦闘しと大いに敵を損害  
せり普は太子フランスロヤール昨二十三日サンデ



ジエー九乃地ふ着陣せに又ツー九ふあふ敵兵半を  
 ナンシーに地ふ陣を移せにツー九に於る乃砲戦ふ  
 味方十五人れ戦死あり本日此手乃諸兵大に戦争し  
 且スタンジに市兵隊苦戦して普兵を多く害せり  
 と云

巴里府市街に布令

一千八百四十九年八月十九日巴里府防戦科目に  
 示令及び一千八百十一年十二月二十四日書載の  
 七十五個條中一に法令に曰戦闘中諸事件を咸に  
 ミニスト九及ゼネラルと叙之を指揮する事勿

論也若亦敵兵巴里府近傍に進入し其距離三日程  
 〔步行し〕三日に來着候べき距離に所を云ふ迫る  
 とき其攻圍を待たば直ちに總裁職より防戦に  
 命派らし此時に於て内外の諸件を都て總裁職威  
 權を司とるべき事

此時無用な人口〔老人及婦女子小兒病人に類を云  
 及外國人を〕巴里府郭外に退居を命に可き事  
 又一千八百五十二年七月九日の令に産業無之者  
 漂泊人又無宿人及び乞食に類を盡く巴里府を放  
 逐に可き事



右に條目を准して更に左に命令を下す

無産業の輩漂泊人無頼乃博徒乞食の類を悉く巴里府内放逐し給ふ事

右に法令を違背する者ハ直ちに軍務裁判局へ可訴出嚴重に其所置可有之事

一千八百七十年八月二十四日

巴里府總裁職ゼネラルドロシユ今般戰場より呼戻しるに巴里府の兵隊の一書を與ふ其大畧

余君等の諸勇士に遇む事誠希しいに幸ひ今相見ぬ事誠得ぬ實り我ら悦ひ之に如らば諸勇士も亦

今此府内の防禦に用意已に成つて勇氣凛々たる兵士ありと視ふは是を皆近日相共り盡力汝らに共隊也市中に壯士皆共ふ今此に居れば余は諸勇士を巴里府に呼ぶを實り其勇猛に深く依頼するに故也諸勇士も亦余を佐くるに是相共に報國乃爲むは也余今又諸勇士の隊長に其勇威を祝は是諸勇士に壯氣あるを我國家に一大幸福也近日其機に至るに及むて諸勇士盡力碎身あらん事余ら冀ふ所也諸勇士其用意せよ

一千八百七十年八月二十四日巴里府



余今日市街を過ぐれみせばストポル街ふ於て市街  
警士數十人此婦女を取て圍んて誘ひ行くを視る何  
者なくむと傍らに問ふは是皆所謂漂泊乃流婦辻君  
賣女の類也と云今夜余新聞日誌を閱はるみ今日市  
街あり捕へ放逐せる所乃浮流此婦女六百人ふ登れ  
てと云○同二十六日軍中報告昨日ハルスブール縣  
此戰闘殊り劇烈ふして普軍より放射しふる破裂丸  
の爲り街中の一寺院及び人家五十一軒を燒亡せり  
然るとも初度の戦争ふ普兵五百人再度乃戦ひり一  
千人を討取せりと云昨日普軍數千エルジュム此周

圍ふ陣せし今日普の大軍都てステシ又とエサ  
し又乃問あり布陣せり

市中示令書

那破倫神此恵み及び人心の歸向あり仍て法國の帝  
あるは今日の事及び後來の事俱て是は謀て是を  
指揮はへし又今般左の人員を擧ぐる巴黎府城郭  
防禦の都督あり任は

シイツクゼネラルメリネツトセナトウールコル  
ミーダールジユピードロームマキードタルオエ  
ーデピユテドユルンヂスラチーフ



今般軍務宰相右の人員を撰舉せしき命を奉せり  
一千八百七十年八月二十五日 諸全權總督  
昨二十五日白國は都比律急府より報知此程普軍の  
虜となれる法兵及び普の手負兵等を戦地より伯靈  
の運送する途中白國內通行の節漫敖の所業あり是  
を以て白くは使節を普軍に送りて其通行を斷らば  
と云是即ち局外中立の謂ぬ也○昨二十五日  
蘭の俺特堤府に報知普國伯靈の日誌中今般戦争  
の初め去る八月二日より十九日まで即ち十八日間  
の損亡せる普兵其數十五萬二百人も内七萬九千四

百八十三人の討死及び敵に虜と成りたる者六萬七  
千六百十七人も手負なり又陣中及び病死せし者其  
數三千一百人も登りりと云然れども十九日以後昨  
廿六日迄は戦鬪ハ殊ニ劇烈にして其戦死傷虜未だ  
檢査しきは其數は多寡知る可からばと云



法華戰爭誌畧卷之一  
 終



